

この紙のゴール：教科書の本文を、キーワードだけを見て自分のことばで言い直せるようにする

この紙はどの教科書のどの本文でも使えます。今日の本文の題名を上を書いて始めてください。4つの段階は上から順に支えが減っていきますー1コマで4つ全部はやりません（先生の指示した段階だけ）。

今日の本文 教科書・課（ ） 題名（ ）

1

キーワードを10語えらぶ

知識・技能

本文から自分で選んで書く（名詞7・動詞3を目安に。出来事が拾えます）。ここで選んだ10語が、最後まで唯一の手がかりになります。

1	2	3	4	5
6	7	8	9	10

2

型をえらんで、並べる

思考・判断・表現

本文の組み立てに近い型を1つ選び、下の3つの枠にキーワードを置き直します（選んだ型の書き出し語は、次の3で使います）。

☐ 時系列	First, ... / Next, ... / After that, ... / Finally, ...
☐ 対比	On the one hand, ... / On the other hand, ... / However, ...
☐ 原因と結果	Because of ..., ... / As a result, ... / This is why ...
☐ 問題と解決	The problem was that ... / To solve it, ... / In the end, ...

はじめ	なか	おわり

3

穴あきアウトラインで、いちど書く

思考・判断・表現

選んだ型の書き出し語を使って、3～5文で。ここでは本文を見てよい。

4

自力で言う（本文を閉じる）

思考・判断・表現

1. キーワードの10語だけを見る。アウトラインは伏せる。

2. 60秒で言い切る（1回目）。詰まっても止めないー聞き手が1語だけヒントを出せます。

3. 交代する。2回目は時間を10秒短くして、同じことをもっと短く言う。

1回目	言えた要点の数（ ） 時間（ 秒）
2回目	言えた要点の数（ ） 時間（ 秒）

聞き手の3つの目

☐ 順序が分かるつなぎ語（First / However / As a result …）が入っているか

☐ 数字・固有名詞が1つ以上入っているか（要点を拾えている証拠）

☐ 本文の丸写しではなく、自分のことばになっているか

助け船は1語だけ。And then? / Do you mean ...? と返します。

配り方

1コマで4段階すべてはやらない

1時間目	Step 1（キーワード）+Step 2（図式化）。読解の仕上げとして使う。ここまでで本文の構造は共有できる
2時間目	Step 3（穴あき）→ Step 4（自力）を2ラウンド。1ラウンド目と2ラウンド目でペアを替える
軽くやる単元	Step 1 → Step 4 の2段階だけ（10分）。全単元を4段階でやると、リテリングが目的になってしまう
評価に使う回	Step 4 の2回目を録音提出。月1回までにする—毎回にすると教師の再生時間で潰れます

評価

加点式8点（暗唱を高く評価しない配点）

本文の要点を3つ以上入れている	+3	思判表
順序が分かるつなぎ語を使っている	+2	思判表
本文の丸写しでない言い直しがある	+2	思判表
止まらずに最後まで言い切っている	+1	知技

暗唱を高く評価しない配点にしております（丸写しは3行目が入らないので上限6点）。逆に、多少たとえしくても自分のことばで要点を運べた生徒が上に来ます—これがリテリングと暗唱の分かれ目です。

本文の型別

どの枠を選ばせるか

説明文	「対比」か「原因と結果」の枠が合います。数字を必ず1つ入れさせると、要点の拾い漏れが減ります
物語文	「時系列」。登場人物の気持ちが変わった1文を必ず入れる、と条件を足すと深くなります
対話文	「問題と解決」。だれが何を言ったかを間接話法で言い直させると、話法の単元とそのままつながります

つまずき

丸暗記になってしまう	手がかりをキーワード10語に限ることが唯一の歯止めです。アウトラインを見ながら話させると、必ず音読に戻ります。
要点が拾えない・細部から話し始める	Step 1 の選語を「名詞7・動詞3」と数で縛ると、出来事の骨格が残ります。選んだ語をペアで見せ合う30秒を挟むのも有効です。
沈黙が続いて場が止まる	聞き手に「1語だけヒントを出す権利」を渡しておきます。助ける側も本文を思い出す必要があるので、聞き手の学習にもなります。

40人を回す

- ・40人なら、Step 4 はペア同時進行で2ラウンド＝約6分。教師は5～6人だけを回って聞き、その場で加点式のメモを取ります。
- ・全員の記録を残す必要はありません。評価に使う回だけ録音提出にして、ふだんはペアの相互評価で回します。
- ・同じ本文で日を空けて2回やると、2回目のほうが短く正確になります。伸びが見えるので、生徒の納得も得やすい形です。

